

インターバンクの声（2014年8月15日）

前日の欧州市場では、イングランド銀行（英中央銀行）の四半期インフレ報告の内容がハト派寄りと解釈され、強まっていた市場の早期利上げ観測を後退させた。このため英ポンドが大幅に下落したが、昨日発表されたユーロ圏 GDP や圏内主要国 GDP のいずれもが弱い内容だったにも関わらず、ユーロは売り反応とはならなかった。今回の独や仏 GDP の結果は弱くなりそうだと、の事前予想が出ていたことや、プーチン露大統領によるウクライナ問題の收拾に前向きに取り組むとの発言が逆にユーロ買いに繋がったようだ。金曜日のニューヨーク市場では、米国の生産者物価指数や鉱工業生産など幾つかの経済指標の発表が予定されているが、市場の注目は早くも来週のジャクソンホールでのイエレン FRB 議長のスピーチに向かっているようだ。そのイエレン議長スピーチに関しても、小売売上や雇用関連指標の内容が振るわないことから、早くも引き続きハト派的な内容に留まりそうだとの声も出始めている。主要通貨の指標やイベントへの反応が大きくなり始めたことも考えれば、事前予想が一方向に傾くほど思わぬ結果にも大きな反応が出ることにもなり、今から期待をなくすこともないだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。